

日本空手協会の一員として旭日双光章を戴いて

静岡県 川崎 功

昭和 33 年、工学院大学 2 年の春に郷里の先輩の勧めで空手を始めました。

当時、私は自動車部に在籍しておりましたので、掛け持ちで活動しようと思い入部しましたが、主将から怒鳴られ泣く泣く自動車部を辞め、講義の後は大学の地下講堂の隅で厳しい稽古をしておりました。

当時は、基本・基本五本組手・平安の形の繰り返しでした。時折総本部の先生が来られて抜塞大等を教えて頂きました。五本組手は格闘競技の如く腕と腕の叩き合いで、稽古が終わると腕は真赤に腫れて傷だらけになった事を覚えております。

昇級審査は定期的に総本部の先生が来られ、当時は中山首席師範と庄司先生に審査をして頂いておりました。

4 年生になると四ツ谷道場に稽古に行くように言われ、厳しい指導を受けるのでとても不安であったことを覚えております。

昭和 36 年に就職した会社、豊年製油は幸い運動が盛んでしたので、空手に対しても関心があり工場の弓道場に畳一畳もある大きな姿見を用意して頂きました。

当時仕事は余裕があり夕方 4 時には仕事が終わっておりましたが、お金がない為終業後は間借りした弓道場で、大学時代に覚えた基本技と平安の形そして抜塞大を鏡の前で繰り返し練習しておりました。疲れると仰向けになって寝、目が覚めるとまた練習の繰り返しを毎日 2 時間近くしておりました。この様な姿見を手本にした一人練習は 1 年近く続いたと思いますが、その成果が実り昭和 37 年 11 月に開催された静岡県空手道選手権大会では個人戦組手の部と形の部で優勝することができました。

それが地元紙静岡新聞に、川崎（豊年）優勝 と大々的に報道された為、400 人程の清水工場の皆知ることとなり、それがきっかけでその年の 12 月に空手部を創設し本格的な指導の開始と新たな自分の練習を始めました。

その後道場も建てて頂き、大勢の入部があり活気ある練習を毎日のようにしておりました。自分も血気盛んな頃でしたので大学時代の練習を思い出し激しい練習を続け、休日には練習相手を求めて空手協会静岡支部に出稽古にも行っておりました。その結果、昭和 38 年 6 月の全国大会の都道府県団体形の部で第三位に入賞する事が出来その時の感激は今でも忘れる事は出来ません。

その後の東海地区大会では昭和 40 年～昭和 45 年まで組手の部で 2 回優勝し、形の部でも 5 回優勝することができました。

全国大会で総本部の指導員の目を見張るような技を観る度に更に空手の魅力に引き込まれました。特に榎枝先生と白井先生の決勝戦には目が釘付けになり空手に対する情熱は衰えるどころか益々高まり空手人生を極めようと思いました。

更に、恵比寿道場での研修会で中山首席師範の技の解説を伺った後の稽古をしている内に今まで出

来なかった技が出来る事に気が付きました。

その技が出来るまで練習することはもとより、練習方法も見直し繰り返し練習する事で指導員のような技に近づくかも知れない、いや近づきたいと思うようになりました。同時に空手の技の奥の深さを感じ、空手の魅力に取りつかれていく自分に気が付きました。

それからの自分は空手に対する考え方がより積極的になり、県本部そして総本部主催の研修会にも積極的に参加して貪欲に空手の技の吸収に努めました。

順調に発展してきた空手協会も残念なことに平成2年法人登記謄本事件が発覚し、大きな試練を迎えましたが、鉄の結束で乗り越えることができました。

平成12年現在の総本部道場が出来た時の感激はこの事件の解決に携わった一人として忘れることは出来ません。

静岡国体開催1年前の平成14年6月に静岡県空手道連盟の理事長に就任しました。不正会計による財政難と組織の混乱で、上部団体である全空連との関係も悪化しており、また行政の監督官庁である静岡県と体育協会からも今一つ信頼されていない状況でありました。

国体開催までの時間が無い、更には選手強化もしなければならぬ等々問題は山積しておりましたが、空手協会で経験した貴重な経験を活かし、空手協会県本部の全面的な支援で組織を立て直し、関係先との修復にも努めました。

平成15年10月のNEW!!わかふじ国体の空手競技の開催を成功に導き、競技成績でも天皇杯・皇后杯ともに優勝という成果を挙げました。

また平成21年9月には高円宮殿下のご臨席を賜った全日本スポーツマスターズ空手道競技会に於いて競技委員長を務め、この大会に引き続き開催された第5回全日本障害者空手道競技大会では競技役員として大会委員長の重責を担いました。

これらのことが、旭日双光章を戴いた大きな要因ではないかと思っております。

昨年1月、静岡県体育協会の専務理事から叙勲候補として推薦したいとの連絡を受けました。その後、静岡県空手道連盟会長としての功績、履歴等についてすべての報告を求められ職歴も併せて提出しました。

内定の連絡は10月下旬で正式発表は11月3日の文化の日でした。

叙勲の新聞発表になってからは身辺が一変しました。新聞社からの取材、県知事・市長・県内の衆参議院議員・スポーツ関係議員からの祝電を頂いたことで叙勲の反響の大きさに驚きました。

本来の叙勲の伝達式は皇居で執り行われますが、今年もコロナの為、県庁で11月25日知事より頂きました。勲章を身に着け天皇陛下から賜った賞状を観ますと自然に頭が下がり身の引き締まる思いがしました。

年明けから通常な社会活動になり、皇居の見学の案内がまいりましたので、私は2月7日申し込みました。

叙勲を賜ったことは、国の為・国民の為に尽くす事ですので、今後益々空手道に精進し修行に励み空手道の発展に寄与し続けたいと思います。